

質疑及び一般質問

令和3年2月24日、25日、3月1日、2日に開催された
質疑及び一般質問では、次の議員が質問を行いました。

質疑及び一般質問の
映像はこちら



○質疑及び一般質問の中から一部を掲載します。

2月24日(水)



◎新型コロナウイルス感染症に伴う経済対策について

自由民主党 金井 康夫

Q 県内観光業を支えるため、昨年実施した県民向け「愛郷ぐんまプロジェクト 泊まって！応援キャンペーン」を再度実施することについて、知事の考えを伺います。

A 前回実施した愛郷ぐんまプロジェクトでは、県民に「マイクロツーリズム」が浸透し、宿泊者数でも極めて大きな成果を上げることができました。再度の実施については、今後の感染状況をよく見極める必要がありますが、苦境にある観光関連産業を支援するため、幅広い分野や業種に効果が及ぶような形で実施できるよう検討してまいります。



◎群馬県民会館のあり方見直しについて

自由民主党 安孫子 哲

Q 県民会館は、存続を求める2万筆を超える署名が提出されていますが、最終報告の公表に向けた進捗状況と最終報告の検討状況について伺います。

A 県民会館は、現状は、全県的な文化施設というよりも、前橋市域の文化会館としての位置付けが大きいと考えています。現在、プロジェクトチームで、県と前橋市の連携により施設の機能を維持することは可能か、協議を進めています。県民会館の方向性については、議会の決議も踏まえ、年度内の最終報告での決定にこだわらず、時間をかけて、丁寧に検討してまいります。



県民会館



◎コロナ禍における予算等について

リベラル群馬 後藤 克己

Q イベント・プロモーションをはじめ、さまざまな事業の見直しを行っている中で、知事肝いりの施策についても例外扱いすべきでないと考えます。特に、ぐんまちゃんブランド化の全国プロモーションなど、コロナ禍にあっては慎重に執行すべきだと考えますがいかがでしょうか。

A 財政改革に取り組む中においても、歳出を削るだけでなく、新たな富や価値を創り出す部分にも力を入れていきたいと考えています。ぐんまちゃんのプロモーションは、必ずしも人を集める方法だけを考えているわけではありませんが、注意しながら進めていきたいと考えています。



◎アーティストックGUNMAについて

令明 井田 泰彦

Q 桐生市出身の画家である山口晃氏の作品を購入するとのことですが、その活用について伺います。

A 山口晃氏は、東京2020公式アートポスターの作品などで知られる現代アートの第一人者です。山口氏の作品購入は初めてであり、館林美術館を中心に展示し、多くの方に御覧いただきたいと考えています。ま

た、「アーティストックGUNMA」のアート教育においても活用を考えています。アートの持つ多面的な力を生かした事業を市町村とも連携しながら展開することで、地域に活力を生み出してまいります。



◎県立専門高校における産業教育設備の更新について

公明党 福重 隆浩

Q 国の第3次補正予算を受けて、今後の県立専門高校における産業教育設備の更新に向けた対応について伺います。

A 卒業後も活用できる確かな技術・技能を身に付けた人材の育成は重要と認識しています。CNC旋盤など従来導入の難しかった高額設備の充実を図るため、国庫補助を活用して2月補正予算案に6億円を、併せて測量機器など国庫補助の対象にならない設備の整備については、当初予算案に県単独事業として1億円を計上しました。今後も産業教育設備の充実に継続して取り組み、さまざまな産業分野において本県の未来を担う人材の育成に取り組んでまいります。



CNC旋盤

2月25日(木)



◎県民幸福度について

自由民主党 川野辺 達也

Q コロナ禍によって県民の幸福感にもさまざまな影響があると思います。また、コロナ禍が収束した後も、幸福感には新たな変化が生じるとは思います。幸福度向上に向け、どのように対応するか伺います。

A 県民の社会経済活動が制限されている中、県民の幸福感にも大きな影響が生じていると思っています。しかし、withコロナやニューノーマルへの転換は、ライフスタイルを見直す契機にもなります。こうした変化を見定めながら、県民幸福度向上のため、県民の安全・安心と暮らしを守るとともに、群馬を元気にする取組を進めてまいります。また、幸福と教育には大きな関わりがあると感じていますので、教育イノベーションを推進することで、幸福度向上につなげていきたいと考えています。



◎側わん症(※)の家庭への周知と検診機器の導入について

令明 金子 渡

Q 家庭に側わん症の確認を促すための周知が重要であると考えます。また、側わん症を見落とさないよう、学校の健康診断に検診機器を導入すべきと考えますがいかがでしょうか。

A 側わん症の早期発見には、日頃の観察が重要で、各家庭の協力が不可欠であることから、健康診断をはじめとするさまざまな機会での周知を通じて、家庭でのフォローアップが行われるよう努めてまいります。なお、検診機器の導入については、機器が高額であることや検診の実施方法を見直す必要もあることから、関係機関等の意見も聞いて検討していく必要があると考えています。



◎こんにやくの販売・消費拡大について

自由民主党 牛木 義

Q こんにやくの販売や消費拡大のためには、こんにやくの魅力を発信し需要喚起を図る必要がありますが、今後の取組について伺います。

A こんにやくは、低カロリーで食物繊維が多く含まれるため、ダイエット用食材として消費者に認知されてきていますが、ここ数年では、こんにやくにも含まれるセラミドに肌の保湿効果が認められるなど、新たな健康機能が注目されています。健康機能性や魅力的な商品の情報を動画ポータルサイト「tsulunus」(ツルノス) 動画等で広く周知することなどにより、こんにやくの消費拡大につなげたいと考えています。



◎PCR検査の抜本的強化について

日本共産党 酒井 宏明

Q 感染症多発地域への網羅的なPCR検査や高齢者施設等への社会的検査を実施すべきと考えますがいかがでしょうか。

A 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、感染経路不明の感染者が多数発生していたり、クラスターが複数発生しているなど、流行が拡大している地域の高齢者施設等においては、集団感染を防ぐよう、無症状者であっても積極的なPCR検査等を実施する考えです。網羅的なPCR検査については、流行状況に応じた対象者や検査頻度の設定、費用対効果などの課題もあることから、他県の例を踏まえて検討してまいります。

3月1日(月)



◎信号機のない横断歩道における歩行者優先を徹底する取組について

自由民主党 今泉 健司

Q 歩行者が被害者となる交通死亡事故の状況と、信号機のない横断歩道における歩行者優先を徹底させる取組について伺います。

A 歩行者が被害者となる交通死亡事故は、過去5年間で97件発生しています。県警察では、昨年からは、信号機のない横断歩道における歩行者優先を徹底させるため、横断歩道における車両の停止実態を調査した上で交通指導取締りを強化する特別対策も実施し、一定の効果を上げています。この取組を継続して実施し、歩行者が関わる交通事故を防止してまいります。



◎男性県職員の育児参画について

裕心会 大林 裕子

Q 女性の活躍を進めるには、男性の働き方の見直しや育児休業取得等、男性への働きかけも重要であると思います。一般企業に先んじて、県職員が率先して取り組んでいくことを望みますが、いかがでしょうか。

A 県では、独自の取組として、家庭のニーズに合った制度を設け、育児休業を取得しやすい環境を整えることにより、男性の育児参画を促してきました。育児は男女がともに担うべきものであり、県には民間事業者の取組をリードする役割があることも踏まえ、今後も、男性職員の育児参画に積極的に取り組んでまいります。

※側わん症…背骨(脊柱)が何らかの原因で左右に曲がってしまう病気です。特に12歳前後の女子が多く発症するといわれています。